

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>利用者様を地域の中で支えられるよう「しあわせになる」という理念を作り、一人ひとりの生活を支えている。</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>日々のケアに理念があり、利用者様に伝わっていくケアとなるよう取り組んでいる。</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p> <p>契約時に説明し、機会がある時は話し、伝えるようにしている。</p>	○	<p>家族様、地域向け広報に理念を毎回記載し、伝えていきたいと思えます。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>ゴミ出し、散歩、買い物など出かけた時は近隣の方々とあいさつを交わし、関係作りをしている。</p>	○	<p>地域の方が参加していただける行事を立て交流を図っていきたい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>地域の盆踊りには利用者様と参加し、行事参加のお誘いを受けている。</p>	○	<p>今後も地域の行事に参加し、地域住民の一人としての役割を担っていきたい。</p>
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>地域の方からの相談に応じながら、他機関への紹介や事業所として出来る事は取り組んでいる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全職員で自己評価の意義を理解し、取り組んでいる。結果については、ユニットごと、全体会議で改善に向けての話し合いをしたが十分な取り組みがされなかった。	○	改善内容を細分化し、具体的に取り組めるよう見直しをし、改善していく。
8 ○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	特定の参加メンバーを変更したく取り組んだが解決されず、今年度は開催に至っていない。	○	年間通した開催計画のもと時間、曜日等を見直し、参加して頂けるよう取り組んでいく。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市担当者には運営上の質問や疑問について相談に乗っていただきながら取り組んでいる。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	地域権利擁護を利用している方がおり、担当者と連携をとりながら支援している。	○	成年後見制度を必要とする利用者様には家族様と協力しながら体制を作っていきたい。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	管理者、職員は虐待のないケアを周知徹底しており、取り組んでいる。	○	虐待の種類を理解しており、今後も虐待のないケアをしていく。
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約内容は家族様が理解するよう、具体的なことをもとに説明している。解除についても、十分な話し合いの機会を作っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様からの意見や不満がある時は、看護師、管理者、職員が話を聴き、情報の共有をし運営の参考としている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月の便りや面会時に暮らしぶりを報告している。また、健康状態に変化がある時は、その都度連絡し結果報告をしている。	○	職員全員の写真を掲示し紹介している。広報にて行事の写真を載せ、様子をお知らせしている。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	外部の相談機関等の情報提供は契約時に説明している。また、家族様へ連絡や報告の機会に意見をお聞きするようになっている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員個人の意見は、その都度聴き、全体会議(2ヶ月に1回)やカンファレンス(毎月1回)の時に機会を作っている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	その都度必要に応じ職員を配置している。緊急に人員を要する時は他階スタッフを必要時間配置し対応している。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	新しい職員が入った時は、仕事の引き継ぎや利用者様、家族様へ紹介し、利用者様へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修参加へは段階に応じて参加している。研修アンケートを取り、受講出来るよう対応している。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	市、同地区の管理者会議への出席と同地区のグループホームの交流を行い、サービスの質を高めている。	○	同地区の管理者会議にて交流の機会を作っている。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	運営者は面談や話しかけにより、職員との交流を図っている。働き良い環境となるよう努めている。	○	系列のグループホームと交流をし、職員同士の話し合いの機会を設け、悩み事等を話し合っている。(男性職員は他の交流会参加の機会を作っている。)
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	運営者は職場、勤務状況を把握しており、資格取得に向けた支援や研修参加の支援をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	必ず事前面談や見学をしていただき、困っていること、何を望んでいるか情報収集を行い、不安解消をしている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	相談があった時は、困っていること、どうなると良いと考えているのかをお聴きし、事業所として対応出来ること、出来ないことをお話している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時、ご本人様と家族様が求めていることを聴き出し、当事業所では対応出来ない時は、他機関の利用、紹介を行っている。	○	受け入れ可能で、緊急を要する方には、可能な限り柔軟な対応を行っている。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご本人様、家族様に事業所見学をして頂き、雰囲気を感じてもらい、お試し利用にも応じている事は話している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	一緒に出来ることは行い、利用者様の各々に得意とすることに力を発揮できるように工夫している。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族様と情報は共有しており、一緒に支えていく関係を築くことに努力している。	○	一緒に支えていけるよう、手紙や電話にて利用者様の思いなどは伝えている。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	外出、外泊は柔軟に対応している。また、家族様参加の行事を設け、関係の継続に努めている。	○	遠距離の家族様や疎遠となっている方もおり、元の関係となるよう手助けしていきたい。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族様、友人に会うことが出来るよう、面会の制限を設けていない。また、希望があればお連れするようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	気の合う者同士がお互いの部屋で談話できるように支援している。孤立しがちな方には、居間の方にて職員が関わるなどし調整に努めている。	○	入居者様の病気、体質にお互いいたわりの気持ちをもって接することができるように職員は介入している。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去された後もお見舞いや、様子をお伺いするようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の対話の中から望まれていることを聴き、添えるように努めている。また、行動や表情から汲み取れるようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族様、利用者様より得た情報と実際関わってみて違う時は、確認するようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	利用者様一人ひとりの状態(機能、心理)を把握し、出来ている事は強調してお伝えするようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	日頃の関わりや会話の中で、意見や要望を聴きとり、カンファレンスで意見交換を行い作成に活かしている。	○	介護計画書を読んだら、その方が思い浮かべられるような内容としていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の遂行状況、効果を評価するとともに、状態変化や家族様、利用者様の要望によって見直しを行っている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	利用者様、各々の様子や気付きなどは個人ケースに記録され、職員間の情報共有のために毎日の申し送りと、情報収集することを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	予定日以外の通院や急な買い物の申し出など臨機応変に対応できるようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	安心して暮らせるよう、警察、消防、民生委員の方々の協力を得ながら支援している。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	訪問理美容サービス(月2回)や行事でのボランティアの利用は行っている。	○	地域のケアマネジャーの力を借り、地域での催し物やインフォーマルな部分の情報収集を行っていきたい。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	事業所内で解決出来ないことは相談し、力になってもらっている。	○	成年後見制度が必要な利用者様に、地域包括支援センターの力を借り、利用できるよう支援していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時にかかりつけ医については、利用者様、家族様と相談の上決めている。協力医療機関以外の往診も受けており、受診、往診後の情報を共有するため確認後はサインをしている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	物忘れ外来や心療内科、精神科などの担当医に受診時や必要なときに相談し、時々に応じて指示をいただいている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師が週2回来るので、助言や対応について相談に乗ってもらっている。また、緊急時はその都度判断を仰いでいる。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時は情報提供をするとともに、家族様とも連絡を取りながら、退院に向けての支援をしている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	かかりつけ医を交え、早い段階より方針について話し合い家族様とも合意を得ながら、即した対応を取っている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化や終末期については事業所として出来ることは、かかりつけ医と共に取り組んでいる。	○	必要に応じた往診体制作りと利用者様、家族様に安心していただけるようにして取り組みたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	事業所での支援内容、注意点などを情報提供し、住替えのダメージが最小限になるよう努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	個人情報は各利用者、来訪者様の前で話さないようにしており、個人情報の取り扱いについても十分注意している。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	直接希望や要望を言われる方には、その都度対応しているが、訴えの無い方にはわかりやすいようにパンフレットやメニューなどを利用した対応をとっている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事時間などは一応決めてあるが、その時々体調や要望がある時は合わせた対応をしている。	○	昼夜逆転や運動するよう担当医より指示がある方には、配慮しながら支援している。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	ご自分で選んで楽しませている。また、支援が必要な方には、天候も考えながら選べるようにしている。カットや毛染めは利用者様、家族様の要望に添っている。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	一人ひとりの好みに合わせ、メニューを変えたり、体調が良い時は料理の下準備や後片付けなどされている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	一人ひとりの嗜好物は把握しており、病気に配慮しながらおやつは楽しめるようにしている。また、お酒は家族様、担当医と相談の上対応している。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	尿意のない方は、排泄チェック表を利用し、声かけ誘導にてトイレで排泄できるように支援している。	○	入居者様の排泄前の動作を見定め、トイレ誘導をすることで、失禁回数を減らしている。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	利用者様の入浴希望を聴いて、湯温度や介助方法を各々に合わせながら支援している。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人ひとりの体調や疲れ具合(行事、通院、面会など)に合わせた対応をしている。日中の生活リズムを整え、家族様と相談しながら病院受診や薬を利用している。	○	担当医と相談しながら、最小限の薬対応としている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりの得意とすることを把握しながら、仕事を頼み、感謝の言葉を伝えている。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族様と相談の上、ご本人の希望と力量に応じて所持出来るようにしている。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気や体調をみて希望に添えるようにしているが、職員の人数によっては支援出来ないこともある。	○	通院時にお孫さんに会いに寄ったりされている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	イチゴ狩りや家族様同伴の食事会など、共に外出する機会を作っている。	○	遠方よりみえる家族様には、食事の機会や温泉などすすめ、共に過ごす時間を作って頂いている。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	利用者様が電話を希望する時は、取次の支援も含め、時間に配慮しながら使用することができる。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族様、馴染みの方々が訪問できるよう、訪問時間の制限は定めていない。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	運営者、全職員は身体拘束の禁止事項については理解している。	○	ベッド柵は解除バーとして使用しているが、家族様には同意を得ている。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	利用者様の様子に合わせて、見守りや巡回にて一人で出まわらないよう取り組んでいる。夜間は防犯のため玄関とユニット扉は施錠している。		
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	記録などの事務作業は居間でさりげなく見守りしながら書いている。昼夜共に利用者様の動きがわかる所において、介助や安全確保をしている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	薬、刃物、ハサミなどの保管と管理は職員が行っている。利用者様の能力によっては洗剤や裁縫箱を持っている。	○	利用者様の能力をよく見定め、状況変化に即した対応を今後もしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人ひとりの事故を未然に防ぐために、共有認識となるよう申し送りをしている。家族様への報告はもとより、危険が予測される時は予防の対応をしている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	年2回の応急手当の勉強会を実施している。緊急時の対応マニュアルもあり、周知徹底を図っている。	○	全ての職員が対応することが出来るよう、勉強会を行ってほしい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の協力のもと避難訓練や消火器の使い方などの訓練を定期的に行っている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	起こり得るリスクの把握に努め、家族様にも相談し対応策を見出している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	普段の状況を職員は把握しており、変化がある時は担当医に相談している。管理者、職員間、家族様への連絡により、情報を共有している。	○	こまめに気温の対応と感染の流行情報収集によって、先手の対応を取っている。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員は服薬内容を把握出来るよう個人の病院ごとに整理している。薬変更や担当医の指示があった場合は、バイタル測定の回数を増やした対応をしている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分量や食材の工夫、マッサージ等により排便が出来るようにしている。下剤量は担当医と相談しながら負担軽減を図っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	職員は一人ひとりの力に応じて、見守り、一部介助にて対応している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの食事量、水分量や嗜好も把握し、毎日記録もしている。摂取量の少ない方には、タイミングを見て勧め飲んで頂いている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症についての情報収集を行い、取り決めと早期対応が出来るよう職員に話している。	○	利用者様、家族様に相談の上、予防接種や掃除用の洗剤も予防のため年間通し使用している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎日、調理器具等の漂着をまんべんなく出来るようチェック表を利用し、衛生管理を行っている。食材は外注でほぼ毎日届けられ、残りの点検も頻繁に行っている。	○	メニュー以外のものを残り食材で一品作ったりして、無駄のない対応をしている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関前にプランター、ベンチを置き、親しみやすいようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用空間に鉢物を置いたり、飾り物で居心地よく過ごせるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	仲の良い利用者様同士で過ごされたりしているが、共用空間の狭さから、場所づくりは苦慮している。		
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者様の使い慣れた家具が持ち込まれ、居心地良いものとなっている。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度、湿度計にて確認し、利用者様の発汗や手足の冷えなどに注意して調節している。トイレは換気扇と消臭剤にて工夫している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	必要箇所には手すりや補助棒が設置され、身体機能を活かした生活ができるようにしている。	○	段差(大、小)があり、スロープや踏み台にて解消し、その都度声かけや介助にて安全を徹底したケアをしている。
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	利用者様にとってわかりやすい表示をし、生活する上での混乱や失敗を防ぐようにしている。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	花、トマトの苗植えや収穫を楽しんで頂いている。	○	花摘みや作物の収穫が楽しめるよう、ボランティアの力を借りたりし、畑整備をしていきたい。

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

利用者様の介護、介助は自分の親、祖父母と関わっているようにしていることです。